ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区献血委員連絡会議　議事要旨

平成２６年１２月２４日

開 催 日 時	平成 26 年 12 月 4 日（木）　14 時 30 分～16 時 50 分
開 催 場 所	八仙閣　5 階　連翹雪柳の間（福岡市博多区博多駅東 2-7-7）
出　席　者	ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区会員各位（別紙参照） 九州ブロック各県赤十字血液センターライオンズクラブ担当職員（別紙参照） 九州ブロック血液センター髙附副所長・小材総務部長・井上事業部長 中村企画課長・岩根企画係長・横山広報係長・田﨑主事（議事）

【議　題】

＜開会挨拶＞

○ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員長　Ｌ河野　公史

337 複合地区献眼・献腎・献血推進委員長　河野と申します。

本日はお寒いなか 337 複合地区献血委員会連絡会議開催にあたりまして年末のご多忙のなか九州ブロック血液センター髙附副所長をはじめ血液センター関係者の方々、また各地遠いところから複合地区から委員さん、準地区から委員さんに出席いただきました。

昭和 39 年、政府が閣議において輸血用の血液は献血により確保する決議を採択して以来、節目の 50 年となりました。

最近、特に需要量に見合う新たな献血者の確保につきましては少子高齢化、過疎化による献血可能人口の減少などの影響により大変厳しくなってきております。

そこで血液事業には深い理解をいただいているライオンズクラブの皆さま方に今の窮状をご理解いただき今一度クラブの周辺から輸血の輪を広げていきたいと思います。

ライオンズクラブの皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします。

○日本赤十字社九州ブロック血液センター副所長　髙附　兼幸

【挨拶】

九州ブロック血液センター副所長の髙附でございます。

本来でならば、当ブロック血液センター所長の清川より皆さんへご挨拶申し上げるところですが、本日は公務出張のため欠席とさせていただいております。

私の方から本会議の開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、お集まりの、ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区及び各地区ガバナー様、各地区三献委員長様、また、各地区ライオンズクラブ会員の皆さまにおかれましては、日頃から日本赤十字社の血液事業に多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、献血の現状に目を向けてみますと、少子高齢化社会を迎えた日本においては、これからの血液事業を支えていただくべき 10 代、20 代の若年層世代における献血者数がこの 10 年で約 40％も減少しているという厳しい現実に直面いたしております。

今後、現在の献血率のまま、少子高齢社会が進むと、日赤が今月 2 日に厚労省専門家会議で報告したデータでは血液製剤の需要がピークを迎える 2027 年頃には、およそ 85 万人分の血液製剤が不足すると言われており、輸血治療に重大な支障をきたす恐れがあります。

このような状況の中、輸血用血液製剤を安定的に患者さまにお届けするためには、献血をはじめ、様々な社会貢献活動を通じて地域社会と強いつながりを持っておられる皆さま方をはじ

めとしたライオンズクラブ会員の皆さまの、血液事業に対するさらなるご理解とご協力が必要不可欠でございます。また、重要であると考えております。
本日は、当センター担当者より、九州ブロックにおける血液事業現状についてご説明させていただくほか、伊都福岡ライオンズクラブの大舘照光様のご講演と各地区の委員様から、それぞれの献血推進活動のご報告をいただく事としております。
本会において、ぜひ、多くの情報を共有されまして各地区にお持ち帰りいただき今後の皆さまの活動の一助としていただければと思います。
最後になりますが、ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区の益々のご発展と、ご出席の皆さまのご健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。
本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

＜講演Ⅰ＞
○日本赤十字社九州ブロック血液センター事業部長　井上　慎吾
【講演】演題：「九州ブロック管内需給状況について」
→資料参照
＜講演Ⅱ＞
○ライオンズクラブ国際協会 337-A 地区 4R4Z 伊都福岡ライオンズクラブ　Ｌ大舘　照光
【講演】演題：「献血にかかわる高等学校とライオンズクラブ」
→資料参照

＜事例発表　「各地区における献血推進活動について」（各５分）＞
進行：ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員長　Ｌ河野　公史

○337 複合地区献眼・献腎・献血推進委員　Ｌ白石　栄治

初めまして A 地区の白石と申します。
実は議題の各地区における献血推進活動の状況については、私、勉強不足ですので資料を持っていないのですが、違った観点から皆さまにお話を聞いてもらいたいと思います。
私は前期 A 地区のキャビネット幹部をしていた関係上、そこで思い付いたことを献血問題に関して話してみたいと思います。
先ほどお話がありました伊都福岡ライオンズクラブの献血状況を幹事として凄いという事だから見ておこうと思い、ガバナーと一緒に見に行きました。
真夏の暑かった時期なので 8 月の夏休みから 9 月にかけてと思いますが、献血車 7 台がエンジンをワンワン鳴らしてそれに次から次と入っていくのを見て何名位か聞いてみたのですが、700 数十名から 800 名位の献血があったそうです。
それから時期は違うのですが、私のクラブの近くに飯塚市という人口 13 万人位の都市がある。そこは自衛隊を抱えている関係もあるのですが 1,000 名近く 1 回に献血するのです。当然、陸上自衛隊で若手も多いので数も予想されるのですが、そういうクラブがあって凄いなと思います。
今、私が話をしたいのはそういう大きなクラブの大きな活動も素晴らしいのですが、日赤の方はご存じないと思いますが、アワードというものがありまして、去年、献血部門に色んな部門の申請がありましたが、私が例年 40 クラブあったものを 20 クラブに落としたのです。
表彰ばかりが良いのではない色んな意味もあるのですが、それで年次大会が終わってみたら 4～5 クラブから文句がありました。
例年と同じ事をしていているのに何故前年のキャビネットは評価してくれないのか。それで私はただ単に数を減らすというのは説明にならないのでどのように理解してもらうか考えて自分の信念のとおり言いました。

事業、会社というのはある事業をした時には損益分岐というラインがあると思います。
例えば、何人の人間を使って、何人の機動力を使ってこうしたらこんな数値なわけがない、上げないといけないという様に日赤さんにもやはりそういう表現はよく分からないけどあると思って以前から聞いていたのですが、大体56～57人は1台動かせば欲しいという事でした。
色々とラインを引いたのですが1回につき56人いっていないクラブは落としたわけです。
私のクラブは数十年と活動を続けていて表彰もあったのですが、こういう風に線を引いたら説明するためには自分のクラブも禊ぎをしないといけないので、ある線を基準として落としました。
そういう事から言えば大きなクラブが有利かという事があるものですが、実際には少ないクラブもあります。
これはゾーン・チェアパーソンの方向を決める要領にもあるのですが、このクラブは回数が少ないけども1人が4人の献血者を集めることができたという申請があったらそういうものを入れました。
今度は日赤さんに要望したいのですが、私もクラブの一会員としては何度も何度も献血の現場に行って数名の日赤の常連の方と話をする時に2027年までには献血者と血液を必要とする方のバランスがやがて取れなくなってくるということで、その時に私が商売をしている関係で発する言葉かもしれませんが、「日赤さん、こういうことは2027年にくるということは分からないけれども、やがてくるという事はわかっているのだから平日ではなく土日や夜もしてほしい」と言ったら「はい、あの献血ルームがしていますよ」と献血ルームばかりではなくそういう事も考えなければいけないのではないかという事も述べました。その方は一職員ですのですぐ反映できるか計りません。
もう一つは一部民営化とか例えばバスの運転者は民営化とか考え方は色々ありますが、そういうことをしなければ、足らない、足らない、もっとがんばれとだけ言っていたのでは、日赤さんも考えていると思いますが、そういう事も必要ではないかと視点を変えて考えてみました。

○ライオンズクラブ国際協会337複合地区　献眼・献腎・献血推進委員長　　L河野　公史

337-B地区は大分と宮崎なのですが、大分県は1Rでございます。
タイムリーに諮問委員会に出まして献血活動のお願いをしているところでございますので大分の全体的な事をお話したいと思います。
まず、337-B地区1Rの歴史といたしまして1966年に献血アクティビティを開始しまして別府亀川ライオンズクラブで始まり、これまで献血者総数50万人を超える実績を上げており大分県の献血事業における基幹となる最大の献血協力団体であるという事で今年の 10 月に大分県献血制度発足50年式典記念大会において大分県知事より感謝状が贈呈されました。
各地区のクラブにおいても、独自に、卵、パン、ティッシュペーパー等の処遇品を提供しております。大体7月に1回、24回のライオンズクラブ献血推進セミナーを開催して献血事業の重要性をさらに多くの方々にご理解をいただき献血推進事業の輪を広げる努力を続けていくことを会員の皆さまにお願いいたしました。
献血率は平成25年全国48都道府県中、18位で全国平均を上回ったという事ですが、特に30歳未満の若年者の献血減少が著しいという事を受けまして400mL献血可能年齢を男性に限り17歳に引き下げる採血基準が平成23年4月1日に改正されました。
大分県の10代の献血者数は平成23年に2,000人を切りましたが、平成24年、25年は2,000人を超えており2年連続で増加しているということです。平成25年は大分県50,000人の献血者のうち、ライオンズクラブで7,256人採血しておりまして約14.5%であります。
大分県も少子高齢化、過疎化による献血可能人口の減少により各地区献血実績も停滞気味、伸び悩んでいる傾向にあります。

337-B 地区 1R では献血推進マニュアルの活用、葉書による案内、広報車で周辺地域を PR、官公庁への依頼、あいさつ回りとポスター掲示依頼、ポスター掲示市内各所と地道に活動を行っており、今年度は昨年度より 1 回多くの活動をお願いして歩きました。

今年の第 60 回地区年次大会における分科会議案に高校生の啓蒙を進めるべきであるという提案がありました。

若年層の高校生への取組みとしまして日赤と一緒に DVD を利用して献血の啓発活動をすることと各高校の学校医、学校薬剤師会、学校委員会に相談して協力を求め、そのために各クラブの高校 OB の方に働きかける協力をお願いしました。

高校献血実績については平成 25 年度 8 校 383 人、平成 26 年度 10 校予定のうち、6 校の 244 名が献血しております。少しずつ推進校を増やせるよう声掛けをお願いしております。

また、今回の資料等を参考にして諮問委員会等に参加して訴えていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員　　L 高名　洽

C 地区はお手元に 3 枚綴りの資料があると思いますが、2 年分と今年の 10 月までの実績を記載しております。流れといたしましては、この 2 年は変わらない位で推移しているのですが、若干減少気味というところです。

昨年のなかで特出すべきところは21 頁の一番下に長崎県立総合運動公園バス 1 台 102 名の受付で実績 91 名というものがございます。

これは私のところでやったのですが、サッカーの V・ファーレンさんの試合と V・ファーレンに日赤さんの働きがけで協力していただいて一緒にやろうとなり、それに私達クラブが参加をいたしました。

バス 1 台で日曜日に実施したのですが、試合時間の前から開始して試合終了後も残ったものですから、来てくれた若いファンの方たちに効率良く順番を待っていただいて献血が採れたという事が去年のなかで特筆すべき出来事ではなかったかと思っております。

○ライオンズクラブ国際協会 337-D 地区ドナー推進副委長　L 具志　保嗣

D 地区というよりも後で曽山委員長より鹿児島についてお話しされますので沖縄 R についてお話しさせていただきます。

まず、今期は 7 月 30 日に沖縄 R の全クラブにお声かけをして県血液センターさんと協力しまして献血推進セミナーを開催しました。

献血に積極的なクラブもあれば数が少ないという事で省力的なクラブもあるのですが、そのなかで何ができるかというような意見交換、質疑応答をさせていただいております。

やはり少子高齢化という問題で特に高校生への献血セミナーという事を血液センターで取り組んであるというお話がありました。

今日この場でも伊都福岡ライオンズクラブの話を聞きまして沖縄のライオンズクラブとしても血液センターと協力して献血の大切さを周知できるように取り組んでいきたいと改めて考えております。

それと各クラブ色んな取り組みをされているという事で同じ地区だけではなく今日ここで皆さんと意見交換をして、それを持ち帰って沖縄 R でも周知徹底して献血への取り組みを強化していきたいと思います。

○ライオンズクラブ国際協会 337-E 地区献眼･献腎･献血推進委員長　L 木村　洋一郎

持ち時間 5 分という事でしたので 5 分間お話ししたいと思います。まず、最初に後程、木倉ライオンの方からお話があって重複するかもしれませんが、11 月 24 日、熊本で日本アイバンク運動協議会第 37 回全国大会が行われまして、特に C 地区の皆さまには多くの参加をいただき誠にありがとうございました。

おかげをもちまして 494 名の登録と懇親会に 270 名出席していただきまして盛大に行われました。本当にありがとうございました。

献血推進活動状況については E 地区熊本県の献血実績は 80,106 名でそのうちライオンズクラブ会員の協力実績は 7,826 名となっております。前々期、ライオンズクラブ会員の協力実績は 8,017 名ですから対前年度比マイナス 191 名です。

前期、平成 25 年度 7 月～10 月の 4 ヵ月間の E 地区のライオンズクラブの協力実績は 2,646 名です。

今季、7 月～10 月の 4 カ月間の E 地区のライオンズクラブの協力実績は 2,501 名で対前年度比マイナス 145 名となっております。この点については私も責任を痛感しております。

原因は先ほどお話がありましたけれども、超高齢化社会と生産年齢人口減少で一段と献血者確保が難しくなり、また 20 代、30 代の献血者の確保の確保については特に落ち込みが激しいことが分かります。

今後は高校生、大学生への更なる献血への理解促進と学内献血の活性化を図らないとならないと考えております。

E 地区はこれまでも県内高等学校献血推進に取り組んでまいりましたが、平成 10 年度 72 校、平成 11 年度 67 校以来減少し、近年では平成 23 年度 12 校、平成 24 年度 14 校、平成 25 年度 19 校、献血車 22 台で増加し、今年度は 7 月～12 月まで、12 月は予定ですがこの半期で 18 校、献血車 21 台と増加しつつあります。

E 地区熊本は高校同窓生意識が非常に強く初対面ですと必ず「あなたはどこの高校に行ったのか」と聞きます。

同窓生であればということで仕事のやり繰りがうまくいくという事もございます。

そういう風土を活かし、ライオンズクラブメンバーの卒業した高校に出向いて同窓会の力をお借りして高校献血実績を伸ばしていきたいと思います。

色々、高校にも問題があります。私立高校は先生の異動はないので頼みやすいことがありますが、公立高校には色々情報を得ますと校長先生次第で献血ができるかできないか決まることが多いようです。

今後、根気強く取組み、毎年 1 校ずつでも増やして平成 10 年度の 72 校に近づけたらと思っています。

献血したことのある高校生が親になり、家庭を持ち子供ができ、その子供が高校生になった時、献血をしたことがある親がいる家庭は子供に必ず献血を勧めると思います。

E 地区では献血車で行う献血と熊本市中心の下通り献血ルームで行う献血があります。

熊本市内のライオンズクラブは下通り献血ルームでの献血活動を行って、それ以外のライオンズクラブは献血車での献血活動を行っています。

その他年 2 回、今期は来年 3 月 22 日（日）ゆめタウンはませんで、三献協力会主催の献血運動、5 月 10 日（日）イオンモール熊本クレアでの地区三献委員主催献血運動が行われます。

問題も幾つかあり 9 時受付 10 時開始ですと朝から 1～2 時間は献血者が非常に少ない時間帯になります。

この対策として、昨年、ゆめタウンさんで実施した際、最初の 2 時間位にライオンズクラブの人達に 30 人位集中してきてもらうということで 100 名以上の受付をしております。

午後から献血者が多くなりますが、待ち時間が長いと献血申込者はキャンセルすることが多い。なかには相撲がやっているときは待機場所に TV を置いて相撲でも見せたらという意見

も出ております。
　それから子供連れの家族、子供を待たせるので献血はしたいけれども辞めるという方もいっぱいいらっしゃいます。子供が時間を楽しく過ごせることを考え、フェスティバルみたいな明るく楽しい献血を目指し、ボディーペインティングとかそういう多くの人が献血者の周りに集まるようなことを考えて取り組んでいきたいと思います。
　その点についてはイオンモールさん、ゆめタウンさんと隣におられます坂口三献協力会理事長と共にお話に行ってそういうフェスティバル的な部分を一つ試しに今季からやっていきたいと思っています。

＜「各クラブの活動状況および今後の献血推進活動について」＞
進行：ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員長　L河野　公史

○ライオンズクラブ国際協会 337-A地区視聴力保護福祉・環境保全・献血・献腎委員
L百田　清二

今日は急な代理で参りましたA 地区 2R4Z の百田と申します。
報告いたしますと言っても先ほど伊都福岡ライオンズクラブの大舘ライオンより講演があり、私の方から話す内容が無いくらい話していただきましたので重複するかと思います。
A 地区はどのクラブも献血事業に取り組んでおり、なかでも際立っている伊都福岡ライオンズクラブの献血事業を視察に行って参りました。
時は9 月 11 日（木）晴天、暑い日でありました。
場所は福岡市西区にあります舞鶴高等学校のグランドです。
ここには福岡県にある全部の献血バス７台が集結しておりましてグラウンド狭しとばかりにテントがずらりと張られておりました。
校長先生はじめ職員の方々の理解もあり非常に協力的であります。
生徒も献血をされております。献血者 1,000 人を目標にされており年２回実施されており大変素晴らしい事業だと思います。
ちなみに私のクラブは日赤さんの要望もあり 2 月に実施しており、200 名を目標として献血バス２台を用意していただいております。近年、若干ですが献血者が減少しております。
私事ですが、49 回献血をしましたが昨年３月に心臓の手術をしましたので、今後献血ができないのが残念です。
A 地区の三献委員会はこれからも献血の推進をしてまいります。

○ライオンズクラブ国際協会 337-B 地区 献眼・献腎・献血推進副委員長　L三谷　智晴

皆さまこんにちは。宮崎、大分で活動の活動状況という事で、まず、年次大会の議案であります若年層に対する推進で宮崎大学、宮崎産業経営大学、九州保健福祉大学、その他専門学校等々、ライオンさんが学校の講師、薬剤師、学校医師の立場を利用いたしまして様々な窓口から献血をさせていただいております。
献血数は受付数に対して 70%位でございますが、やはり若いという事もありまして 90%以上の協力があるという事でかなりの数字を上げさせていただいております。
今後の推進活動といたしましてガバナー主催であります献血セミナーをこの前行いましたが、その際に宮崎大学の学生が発表いたしました。
どうやったら献血数が上がるかという事で発表しましたのですが、朝ご飯を食べて来ないからカップラーメンを出してほしいとかバナナやおにぎりを出してほしいとか言っていたのですが、そういう事ではなく先ほどの井上さんの講演にございましたけれども、学校でライ

オンズクラブと言えば薬物乱用防止教室、ライオンズクエストという事で学校に入ってワークショップ等開かせていただいているのですが、同様のことを献血セミナーで実施したい。
　内容としては学生の皆さまに自分の両親、祖父、祖母と高齢者に癌にかかっている人が多いということで、献血のその先には83%位が病気、そのなかで4割近くが癌の治療に使われていること、放射線治療、抗がん剤の治療によって血小板、血漿が使われていることを教えることで内側から献血しないといけないという事を考えて欲しいという事で啓蒙活動をやっていきたいと思っております。
　日赤さんと連携して宮崎大学とも連携しているクラブと模索中でございます。
　私も2週間に1回献血ルームで成分献血をしております。本当に若い方もいらっしゃっていますが、ライオンズクラブもがんばって啓蒙活動をすれば10年後、私たちが癌になった時に困らないように他人事じゃないという事で啓蒙活動をしていきたいと思います。

○ライオンズクラブ国際協会337複合地区　献眼・献腎・献血推進委員　　L高名　洽

　C地区でございますが、別紙の1番上に1R2Zがあります。
　ここは毎年満を持してではございませんが10月31日から11月4日まで連続5日間、バルーン会場で献血をやっており、4～5クラブ位が携わって今年も5日間で400mL献血を600名ほど確保しております。
　それ以外にガバナーより各クラブとも年3回実施せよと申し送りがございまして、やはり日本人は面白いもので前年を割れたら何だかんだという事で非常に私たちもプレッシャーを受けておりまして、とにかく昨年の回数および採血量は確保せよという事で現在がんばっております。

○ライオンズクラブ国際協会337複合地区　献眼・献腎・献血推進副委員長
　D地区ドナー推進委員長　　L曽山　純廣

　鹿児島の国分隼人ライオンズクラブ所属の曽山と申します。よろしくお願いいたします。
　先立って色んな事業を共有して意識を高めていくという話がございました。
　先日は鹿児島でのセミナーの時に恥ずかしいことですが、これが昭和39年に閣議決定された事項であって国の事業として大事なものという事さえも知らないというものでございました。これは本当にお恥ずかしいことだと思っております。
　色んな取り組みで一人でも多くの方の献血をという事で鹿児島の各ゾーン、各クラブの方々も努力をされているのは事実でございます。
　どうやっているかお話を聞くなかで私たちのクラブの献血の進め方にちょっと変わっているなというところがございますので、ご紹介をさせていただきたいと思います。
　私たちはU-13と幼児サッカーというものを年に2回やっております。これは始めて25年位になりますが、まだJリーグがないころから青少年教育の一環としてやっております。
　そのなかで献血を皆さんご父兄の方々も子供さんたちをお持ちの方々は若いですので、父兄の方にお願いして献血をということで、年2回バス2台がくるのですが、何とかかんとか1台あたり120名前後の実績を毎年重ねているという現状でございます。
　これについてはどうしたら増やされるのかというのは今日のお話を聞きながら、ただこれは私が会長をしていた5年前に青少年教育と献血は委員会のメンバーも大変だから一緒にしたらという話を持ち出したのは私でございました。
　只今、色々皆さんのお話を聞きますともう一つの事業の3本目として街のサッカーをやっているところは屋外体育館があるのですが、今年は天候に左右されできなかったという事もありましたけれども、そういうなかでできるだけご迷惑をかけないようにキャンセルしない

ように日赤の車をお呼びして何とか最低限ノルマは達成したいと思っている。
　もう一つ増やすためにはそういった郊外は人口 5,000～6,000 人ところですのでそこから集めるというのは厳しいのですが、真ん中でやって、今はライオンズの単独事業でやっていこうと考えておりますけれども、行政ともう少し協力し、そして報道もサッカーについては報道も入っていただいているのですが、その趣旨がサッカーについての青少年教育とはよく流れているのですがちょっと視点を変えて献血の大事さと何故大事なのかというところも半々位の比率で市民の皆さんに伝えていただく方法も考えていかなければと思っているところです。
　これは人数を増やしての実績でしかない訳ですけど、素晴らしい事業であるかないかではなくて何とか増やしていかないといけないという観点からさらに改めて進めて参りたいと思っているところでございます。簡単ではございますがよろしくお願いいたします。

○ライオンズクラブ国際協会 337-E 地区 献眼・献腎・献血推進委員　Ｌ木倉　益己

　只今、ご紹介いただきましたＥ地区 三献推進委員の木倉です。
　本日は複合地区 三献推進委員Ｌ光延隆三の代理で出席させていただきました。よろしくお願いいたします。
　さて、各クラブの活動状況の前に私の献血体験から話をさせていただきます。
　今から 46 年程になりますが 18 歳で別府の自衛隊に入隊して北海道に渡りました。
　旭川の陸上自衛隊にいた頃、日曜日の外出の際に見知らぬ人が近寄ってきて貴方の血液型は何型ですかと尋ねられ、「0 型です」と言うと緊急に血が必要という事で家族が入院している病院まで来てくれませんかと頼まれましたので、一緒に行って献血したことを思い出します。
　以後、20 数回は献血をしておりますが、現在は年齢とともに高血圧等で献血バスに乗る機会も無くなってきました何となくむなしいものです。
　それではＥ地区の献血状況についてご報告申し上げます。
　Ｅ地区は 59 クラブで 9 月末現在会員数は 1,688 名で構成されております。数字につきましては先ほどの木村委員長と若干の違いがありますがご了承ください。
　昨年度の献血協力状況はライオンズ関係 7,826 名で本年度 3 ヵ月間、10 月末の現状は 2,471 名の協力がなされております。また、11 月 24 日に行われました日本アイバンク運動推進協議会第 37 回全国大会 熊本大会が皆さまのご協力によりまして 500 名の登録、260 名の懇親会参加者をもって盛大に開催することができました。ここに改めて御礼申し上げます。
　Ｅ 地区三献推進委員長 Ｌ木村洋一郎のもと今年度は 8,000 名を目標に熊本県三献推進協力会ならびに熊本県赤十字血液センターのご協力を得ながら目標達成に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

【質疑応答】
進行：ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員長　Ｌ河野　公史

○ライオンズクラブ国際協会 337 複合地区　献眼・献腎・献血推進委員　　Ｌ高名　洽

　話が元に戻って申し訳ございませんが、大舘ライオンにお尋ねします。
　年に 2 回イベント的に実施されているのですが、準備にどれ位かけられていますか。

→ライオンズクラブ国際協会 337-A 地区 4R4Z 伊都福岡ライオンズクラブ Ｌ大舘　照光

　学校のグランドをお借りしますので、学校の都合があるため学校優先という事で学校と日赤

さんと我々で１年前に日程を決めております。
　実際の準備にかかるのは40日前位になります。
　これまで来ていただいた方1,200名にダイレクトメールをお送りしますが、これは住所とかは個人情報の関係で、一旦、葉書を血液センターにお送りして血液センターから送っていただくのが、半月前です。
　我々クラブの委員会が、学校当局と打ち合わせ、グランド使用願い等始めるのが１ヵ月前、ポスター貼り、ポスティングするのもあまり早くやっても効果がないので半月前です。公民館に広報で回覧板に挿んでくださいとお願いするのが１ヵ月前です。ぜんざい等の用意は半月前に婦人部に打ち合わせしていただいております。

○ライオンズクラブ国際協会337複合地区　献眼・献腎・献血推進委員　　Ｌ高名　洽

　予算をどれ位とられていますか。

→ライオンズクラブ国際協会337-Ａ地区4R4Z伊都福岡ライオンズクラブ　Ｌ大舘　照光

　予算は年間100万円ほどかかっています。ぜんざいやトコロテン、備品として机や椅子等、冬にはストーブをお借りしています。
　また、来ていただいた方、皆さまにタオルをお配りしていますので１回あたり50万円です。
　予算とは別なのですが記念事業として舞鶴高校が持っている保育園に100万円単位の遊具をお世話になっているのでお送りさせていただいております。

【その他】
進行：日本赤十字社九州ブロック血液センター総務部企画課長　中村　博明

○日本赤十字社九州ブロック血液センター総務部企画課長　中村　博明

　貴重なご意見ありがとうございました。
　私どもも各ライオンズクラブ様のご協力のもとまた諸団体、各企業のご協力をいただいて血液事業を担っておりますが、先ほどからお話がありましたように若年層が減っているという事、また高齢社会に入っているという事で非常に厳しい状況を迎えております。
ここで私事で申し訳ないのですが、私自身、昨年白血病で倒れまして輸血を受けました。
　まさか血液センターに入って輸血を受けることになるとは考えておりませんでした。
　私も入社して献血を60数回献血しておりまして、昨年、健康診断に引っかかって結果的に８本輸血を行いました。
　医療というのは進んでおりますけれども、特に白血病は自分の血液等が癌化するという事ですので、輸血以外に助かる方法はない、手術をして採るという事でもないという事で自己血という形の輸血方法もとれないという事でございます。
　その時に私が思ったのは、輸血をしている自分の姿を見てこれが輸血なのか献血とは違うと、ある意味本当に感謝いたしました。
　その袋を見ますと血液型以外に県の名前が入っています。鹿児島県、宮崎県、毎日違うのです。
　沖縄以外の九州全県がきました。ですから各県の血液が私のなかに流れています。
　私自身、今この場でこうやってお話ができるというのも、皆さんあってという事で、非常に感謝しております。
　是非とも、今後、自分の為であるとともに、また今後輸血を受けられる方のために１人でも若い方にこの運動を続けていただいてご協力をいただけるようにお願いしたいと思います。
　本日は河野様ご進行ありがとうございました。

以上